科目名【英】	解剖生理学【Anatomy and Physiology】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	72	単　位	4
学　年	2年生	学　期	通年	曜　日	木曜日	時　限	1限

12学期 担当教員	坂井　優志	1学期 実務者経験	金沢武士団鍼灸整骨院　1年間勤務 まえいけ整骨院　1年半勤務
3学期 担当教員	杉本　公一郎	3学期 実務者経験	2009年～2015年　医療法人恵登久会　越川病院にて リハビリテーション室　室長として勤務。 2016年　すぎもと鍼灸整骨院を開設。

学習内容	一年時に学んだ解剖学と生理学を紐付けすることで、改めて一つの学問として学ぶ。
到達目標	解剖学と生理学の両分野を統合した医学知識を体系的に説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	一年時の解剖学、生理学を復習しておく。
使用教材	配布プリント
留意点 備　考	副教材として解剖学・生理学の教科書を持参し受講することが望ましい。

成績評価	期末試験による100％評価

1学期　授業計画【内容･目標】		
1	呼吸器系①	呼吸器　〔解剖生理〕 構造・機能について説明できる
2	呼吸器系②	呼吸器　〔解剖生理〕 構造・機能について説明できる
3	呼吸器系③	呼吸器　〔解剖生理〕 構造・機能について説明できる
4	消化器系①	消化器　〔解剖生理〕 構造・機能について説明できる
5	消化器系②	消化器　〔解剖生理〕 構造・機能について説明できる
6	消化器系③	消化器　〔解剖生理〕 構造・機能について説明できる
7	泌尿器系①	泌尿器　〔解剖生理〕 構造・機能について説明できる
8	泌尿器系②	泌尿器　〔解剖生理〕 構造・機能について説明できる
9	体温①	体温　　〔解剖生理〕 構造・機能について説明できる
10	体温②	体温　　〔解剖生理〕 構造・機能について説明できる
11	試験	
12	まとめ	

2学期　授業計画【内容･目標】		
1	循環１	【血液総論】血液の組成・造血 解剖生理学の基礎をふまえながら総合的に理解し説明することができる。
2	循環２	【心臓血管系】心臓の解剖・心周期 解剖生理学の基礎をふまえながら総合的に理解し説明することができる。
3	循環３	【血液循環】血管の分類・走行・静脈還流 解剖生理学の基礎をふまえながら循環の全体像を総合的に理解し説明することができる。
4	循環４	【循環調節】心拍数・血圧・調節の仕組み 解剖生理学の基礎をふまえながら総合的に理解し説明することができる。
5	消化器１	【消化器概論】消化器系とは何か、消化管壁の構造 消化器系の全体像を理解し、構造と機能を総合的に理解し、説明することができる。
6	消化器２	【口腔・胃】構造と機能 それぞれの構造と機能の違いを理解し、説明することができる。
7	消化器３	【小腸・大腸】構造と機能 それぞれの構造と機能の違いを理解し、説明することができる。
8	消化器４	【膵臓・肝臓】構造と機能 それぞれの構造と機能の違いを理解し、説明することができる。
9	生殖器１	【生殖概論・男性生殖器】構造と機能 構造と機能を理解し、説明することができる。
10	生殖器２	【女性生殖器】構造と機能、性周期 構造と機能を理解し、性周期と合わせて説明することができる。
11	試験	
12	まとめ	

3学期　授業計画【内容･目標】		
1	神経の機能と構造	神経の機能や構造、活動電位、興奮伝導や伝達について学び、それらを説明できるようになる。
2	中枢神経について①	大脳と間脳について学び、それらを説明できるようになる。
3	中枢神経について②	脳幹と脊髄について学び、それらを説明できるようになる。
4	末梢神経について①	脳神経について学び、それらを説明できるようになる。
5	末梢神経について②	脊髄神経について学び、それらを説明できるようになる。
6	自律神経について①	交感神経と副交感神経について学び、それらを説明できるようになる。
7	自律神経について②	自律神経の中枢と関連する反射を含めて学び、それらを説明できるようになる。
8	運動	運動の伝導路について学び、それらを説明できるようになる。
9	感覚	感覚の伝導路について学び、それらを説明できるようになる。
10	特殊感覚①	味覚、嗅覚、聴覚、平衡感覚について学び、それらを説明できるようになる。
11	試験	試験
12	特殊感覚②	視覚について学び、それらを説明できるようになる。

科目名【英】	病理学概論【Outline of Pathology】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	48	単　位	3
学　年	2年生	学　期	1.2学期	曜　日	火曜日	時　限	2限

担当教員	竹中　美樹	実務者経験	辻野夢鍼灸院（2014年8月～2016年3月）

学習内容	「あ、は、き法」により定められた教科ガイドラインに基づく病理学概論は、病理学総論に相当する。 病理学は解剖学・生理学・生化学をはじめとする人体の正常状態を扱う基礎医学と具体的な疾患の診断・治療に携わる臨床医学を橋渡す位置にある学問であり、疾病によっておこる様々な変化を通じ、病気の発症機序（疾病の原因、経過）と転機について探究する学問である。肉眼的・顕微鏡的形態変化の基盤に、疾病を理解し、その発症メカニズムを学習する。また、講義のなかで演習問題も行なう
到達目標	各種疾病の発症機序を説明できる水準に到達すること。かつはり師・きゅう師国家試験に対応できるレベルに到達すること。

準備学習 時間外学習	講義後、講義で得た要点を『病理学概論第2版』にて復習する。
使用教材	『病理学概論第2版』滝澤登一郎　編集　公益社団法人東洋療法学校協会(医歯薬出版) 『標準病理学第6版』北川晶伸　(医学書院) 『系統看護学講座　専門基礎分野　病理学第5版』大橋健一(医学書院)
留意点 備　考	講義中、まとめとしてはり師きゅう師国家試験で過去に出題された問題に触れる。

成績評価	平常点30％期末試験70％で評価する。

2学期　授業計画【内容･目標】		
1	第1章　病理学とは	[到達目標]病理学における、基礎医学的、臨床医学的役割を理解する。疾病の意義と分類について理解する。
2	第2章　疾病の一般	[到達目標]疾病の定義と分類について説明できる。
3	第3章　病因(1)	[到達目標]病因(内因と外因)について理解する。
4	第3章　病因(2)	[到達目標]病因(内因と外因)について理解する。
5	第4章　循環障害(1)	[到達目標]充血・うっ血・虚血・貧血・出血などの定義・原因・分類について理解する。
6	第4章　循環障害(2)	[到達目標]ショックの定義・分類・症状について理解する。
7	第4章　循環障害(3)	[到達目標]血栓・血栓症、塞栓・塞栓症・梗塞・浮腫についてそれぞれ定義・原因・結果ついて理解する。
8	第5章　代謝障害(1)	[到達目標]退行性・進行性病変について、萎縮・変性・壊死のそれぞれの定義・分類について説明できる。アポトーシスの定義について説明できる。死の定義・判定、死後の変化について知る。
9	第5章　代謝障害(2)	[到達目標]退行性・進行性病変について、萎縮・変性・壊死のそれぞれの定義・分類について説明できる。アポトーシスの定義について説明できる。死の定義・判定、死後の変化について知る。
10	第5章　代謝障害(3)	[到達目標]退行性・進行性病変について、萎縮・変性・壊死のそれぞれの定義・分類について説明できる。アポトーシスの定義について説明できる。死の定義・判定、死後の変化について知る。

11	試験	試験
12	試験解説	試験の解答および解説

3学期　授業計画【内容･目標】		
1	第6章　代謝障害Ⅱ(1)	[到達目標]脂質代謝障害・蛋白質代謝障害について具体的に動脈硬化症・高脂血症などの機序について学ぶ。痛風・アミロイド−シスなどについてその機序について学ぶ。
2	第6章　代謝障害Ⅱ(2)	[到達目標]脂質代謝障害・蛋白質代謝障害について具体的に動脈硬化症・高脂血症などの機序について学ぶ。痛風・アミロイド−シスなどについてその機序について学ぶ。糖質代謝障害(糖尿病など)・色素代謝障害(黄疸)・無機質代謝障害(結石症)の機序について理解する。
3	第6章　代謝障害Ⅱ(3)	[到達目標]糖質代謝障害(糖尿病など)・色素代謝障害(黄疸)・無機質代謝障害(結石症)の機序について理解する。
4	第7章　炎症(1)	[到達目標]炎症の5徴・炎症の経過・再生・創傷治癒・炎症の各型について説明できる。
5	第7章　炎症(1)	[到達目標]炎症の5徴・炎症の経過・再生・創傷治癒・炎症の各型について説明できる。
6	第9章　免疫・アレルギー(1)	[到達目標]免疫の基礎的仕組みについて理解する。免疫担当細胞・液性免疫・細胞性免疫・免疫不全についてその機序、代表的な疾患について説明できる。
7	第9章　免疫・アレルギー(2)	[到達目標]免疫の基礎的仕組みについて理解する。免疫担当細胞・液性免疫・細胞性免疫・免疫不全についてその機序、代表的な疾患について説明できる。アレルギー(Ⅰ〜Ⅳ型)・自己免疫疾患・移植免疫についてその機序、代表的な疾患について説明できる。
8	第8章　腫瘍(1)	[到達目標]腫瘍の定義・腫瘍の分類(良性と悪性・上皮性と非上皮性)を説明できる。 悪性腫瘍と良性腫瘍の違いについて(異型・構造・分化度・悪性度・発育形成・発育速度など)説明できる。悪性腫瘍の転移と進行度について理解する。
9	第8章　腫瘍(2)	[到達目標]　発癌理論を学ぶ。腫瘍の発生原因(内因・外因)について説明できる。腫瘍の診断と治療について概略を学ぶ。
10	第10章　先天性異常	[到達目標]先天性異常の原因と分類について説明できる。 奇形の原因・分類について説明できる。遺伝性疾患(単因子遺伝疾患・多因子遺伝疾患)について説明できる。染色体異常による疾患(常染色体異常・性染色体異常)について代表的な例を説明できる。
11	試験	試験
12	試験解説	試験の解答および解説

科目名【英】	臨床医学総論①【Clinical Medicine in General】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	72	単　位	4
学　年	2年生	学　期	通年	曜　日	水曜	時　限	2限目

担当教員	真田 浩二	実務者経験	2000年4月～2002年3月　鍼灸院に所属 往診および鍼灸院にて鍼灸施術をおこなう

学習内容	現代医学的な観点からの診察学〔検査法・主な症状の診察法など〕・治療学・臨床心理を学ぶ。 鍼灸師に必要な項目のみならず、幅広く現代医学的鑑別診断による病態把握を学ぶ。
到達目標	症候から現代医学的な観点で鑑別診断ができる。臨床の場において実際に活用できるレベル、 かつはり師・きゅう師国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の予習が必要。臨床医学各論との関連を復習する。
使用教材	配布プリント「臨床医学総論」
留意点 備　考	副教材として解剖学・生理学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	各学期に約5回小テスト実施。期末試験80％＋小テスト20％で評価。再試験は試験100％、小テストは含まな

1学期　授業計画【内容･目標】		
1	導入	基礎医学と臨床医学。臨床医学総論と各論。授業の進め方と試験・評価。
2	診断学概要	診察の意義　診療のプロセス　診察の概要　診察の方法 身体診察【身体診察の進め方　身体診察の方法　生命徴候】
3	診断学 全身状態の診察1	顔貌の診察と関連疾患【先端巨大症・下垂体腺腫・副腎皮質の疾患1】
4	診断学３	顔貌の診察と関連疾患【副腎皮質の疾患2】
5	診断学４	顔貌の診察と関連疾患【甲状腺の疾患】
6	診断学５	顔貌の診察と関連疾患【破傷風・パーキンソン病1】
7	診断学６	顔貌の診察と関連疾患【パーキンソン病2】 精神状態の診察と関連疾患【意識状態・感情・協調性・見当識・知能】
8	診断学７	精神状態の診察と関連疾患【アルツハイマー型認知症・脳血管性認知症・レビー小体型認知症】
9	診断学８	精神状態の診察と関連疾患【ピック病・進行性核上性麻痺・球麻痺・梅毒1】
10	診断学９	精神状態の診察と関連疾患【梅毒2】
11	試験	1学期試験
12	試験振り返り 診断学10	精神状態の診察と関連疾患【クロイツフェルトヤコブ病】 体格の診察と関連疾患　巨人症【マルファン症候群・大動脈瘤】

2学期　授業計画【内容･目標】		
1	診断学11	体格の診察と関連疾患巨人症【大動脈解離・ホルネル症候群・反回神経麻痺】
2	診断学12	体格の診察と関連疾患　巨人症【心臓弁膜症】
3	診断学13	体格の診察と関連疾患　巨人症【心不全・リウマチ熱・心房細動】
4	診断学14	体格の診察と関連疾患　巨人症【大動脈解離・ホルネル症候群・反回神経麻痺】
5	診断学15	体格の診察と関連疾患　巨人症【心臓弁膜症】
6	診断学16	体格の診察と関連疾患　巨人症【心不全・リウマチ熱・心房細動】
7	診断学17	体格の診察と関連疾患　巨人症【動脈硬化症・大動脈炎症候群】 体格の診察と関連疾患　小人症【下垂体機能低下症】
8	診断学18	体格の診察と関連疾患　小人症【ターナー症候群・軟骨無形成症・くる病/骨軟化症】
9	診断学19	栄養状態の診察と関連疾患　肥満【インスリノーマ・クラインフェルター症候群】 栄養状態の診察と関連疾患　るいそう・やせ
10	診断学20	栄養状態の診察と関連疾患　るいそう・やせ【甲状腺ホルモン過剰・アジソン病】
11	試験	2学期試験
12	試験振り返り 診断学21	栄養状態の診察と関連疾患　るいそう・やせ【褐色細胞腫】

3学期　授業計画【内容･目標】		
1	診断学22	体位/姿勢の診察と関連疾患【気管支喘息】
2	診断学23	体位/姿勢の診察と関連疾患【髄膜炎・頭蓋内圧亢進】
3	診断学24	体位/姿勢の診察と関連疾患【髄膜刺激症状】 歩行の診察と関連疾患【バージャー病・閉塞性動脈硬化症】
4	診断学25	歩行の診察と関連疾患【下垂足/尖足・筋ジストロフィー】
5	診断学26	歩行の診察と関連疾患【多発性筋炎/皮膚筋炎・膠原病】
6	診断学27	歩行の診察と関連疾患【重症筋無力症・発育性股関節形成不全】
7	診断学28	歩行の診察と関連疾患【レイノー現象・運動失調1】
8	診断学29	歩行の診察と関連疾患【運動失調2・脊髄小脳変性症・多発性硬化症】
9	診断学30	言語の診察と関連疾患【失声症・構音障害・失語症】
10	診断学31	皮膚・粘膜・皮下組織の診察と関連疾患【貧血・ショック】
11	試験	3学期試験
12	試験振り返り 診断学32	皮膚・粘膜・皮下組織の診察と関連疾患【敗血症・チアノーゼ・ファロー四徴症】

科目名【英】	臨床医学各論①【Clinical Medicine Part】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	72	単　位	4
学　年	2年生	学　期	通年	曜　日	1学期：月曜 2学期：金曜 3学期：土曜	時　限	1学期：1限 2学期：1限 3学期：1.2限

1学期 担当教員	山口　隆平	1学期 実務者経験	野々村整形外科クリニック（平成16年4月～平成17年10月）
2学期 担当教員	中村　沙樹	2学期 実務者経験	医療法人社団しおさき会 しおさき鍼灸施術所（2017年４月～2022年３月）
3学期 担当教員	坂井　優志	3学期 実務者経験	金沢武士団鍼灸整骨院　1年間勤務 まえいけ整骨院　1年半勤務

学習内容	現代医学的な観点からの臨床医学を学ぶ。各疾患の概念・疫学・病因・病態生理・症状・診断・治療などをそれぞれ理解する。
到達目標	臨床の場において、実際に活用できるレベルかつ国家試験に対応できるレベルまでを学ぶことを目標とする。

準備学習 時間外学習	
使用教材	【教科書】臨床医学各論、配布資料
留意点 備　考	

成績評価	1学期評価：定期試験70％＋小テスト30％ 2学期評価：各疾患について小テストを実施。小テスト30点満点に換算し、定期テスト70点満点に加算し評価する。 3学期評価：定期試験100％

1学期　授業計画【内容･目標】		
1	感染症	総論　細菌感染症〔猩紅熱・百日咳・ジフテリア・破傷風〕
2	感染症	細菌感染症〔ブドウ球菌感染症・細菌性食中毒・細菌性赤痢・コレラ・腸チフス・パラチフス〕
3	感染症	ウイルス感染症〔インフルエンザ・麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎〕
4	感染症	性感染症〔梅毒・淋病・性器クラミジア感染症・エイズ〕
5	膠原病	リウマチ　SLE　全身性硬化症
6	膠原病	ベーチェット病～血清病
7	代謝性疾患	糖代謝異常　脂質代謝異常
8	代謝性疾患	尿酸代謝異常　その他の代謝異常
9	その他の領域①	婦人科疾患〔子宮頚癌・子宮体癌・乳癌・更年期障害・月経異常〕
10	その他の領域②	眼科疾患〔結膜炎・角膜炎・麦粒腫・白内障・緑内障・眼精疲労〕
11	試験	試験

12	試験解説・まとめ	試験解説とまとめ

授業計画【内容･目標】		
1	呼吸器1	呼吸器系の解剖生理学の言葉を列挙できる。 呼吸機能について説明できる。
2	呼吸器2	呼吸器【呼吸器感染症】 呼吸器系に起きる感染症について説明ができる。
3	呼吸器3	呼吸器【閉塞性・拘束性呼吸器疾患】 COPDや拘束性呼吸器疾患について説明ができる。
4	呼吸器4	呼吸器【肺がん】 肺がんについて説明できる。
5	内分泌1	内分泌器官のフィードバック機構について説明ができる。
6	内分泌2	内分泌【下垂体疾患】 クッシング病、先端巨大症・巨人症について説明ができる。
7	内分泌3	内分泌【下垂体疾患】 下垂体性低身長症、尿崩症について説明ができる。
8	内分泌4	内分泌【甲状腺疾患】 甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、慢性甲状腺炎について説明できる。
9	内分泌5	内分泌【副腎疾患】 副腎皮質機能亢進症、原発性アルドステロン症について説明ができる。
10	内分泌6	内分泌【副腎疾患】 副腎皮質機能低下症、褐色細胞腫について説明ができる。
11	試験	試験
12	まとめ	試験で間違えたところの解説ができる。

3学期　授業計画【内容･目標】		
1	腎・尿器疾患	腎臓と副腎の解剖生理
2	腎・尿器疾患	原発性糸球体腎炎〔糸球体腎炎・腎不全〕、性感染症
3	腎・尿器疾患	腫瘍性疾患〔腎腫瘍・膀胱がん〕、前立腺疾患〔前立腺肥大・前立腺がん〕、結石症〔腎・尿路結石〕
4	腎・尿器疾患	男性不妊症〔乏精子症・精子無力症〕、男性性機能〔勃起障害〕
5	神経疾患	脳血管疾患〔脳梗塞・脳出血〕、認知症〔アルツハイマー・脳血管型認知症〕、感染性疾患
6	神経疾患	脳・脊髄腫瘍〔脳腫瘍・脊髄腫瘍〕、基底核変性疾患〔パーキンソン病〕
7	神経疾患	筋疾患〔重症筋無力症・筋ジストロフィー〕、運動ニューロン疾患〔筋萎縮性側索硬化症〕
8	神経疾患	末梢神経性疾患〔ギランバレー症候群・上肢と下肢の神経障害・末梢性顔面神経麻痺〕
9	神経疾患	神経痛〔三叉神経痛・肋間神経痛・坐骨神経痛・後頭神経痛〕、機能性疾患〔頭痛〕
10	復習	腎・尿器疾患と神経疾患の復習
11	試験	試験
12	試験解説・まとめ	試験解説とまとめ

科目名【英】	臨床医学各論②【Clinical Medicine Part】			必修/選択	必須	授業形式	講義
				総時間数	24	単　位	1
学　年	2年生	学　期	3学期	曜　日	金曜日	時　限	2限目

担当教員	嶋田　琢磨	実務者経験	2010年～2012年：鍼灸整骨院に勤務し鍼灸治療を行う 2020年～：訪問鍼灸院を開業し鍼灸治療を行う

学習内容	現代医学的な観点からの臨床医学を学ぶ。各疾患の概念・疫学・病因・病態生理・症状・診断・治療などをそれぞれ理解する。
到達目標	各整形外科疾患を理解し、はり師、きゅう師国家試験の問題から正しい解答を選ぶことができる。

準備学習 時間外学習	解剖学、生理学の復習を行うこと
使用教材	【教科書】臨床医学各論、配布資料
留意点 備　考	特になし

成績評価	定期試験100％で評価する

2学期　授業計画【内容･目標】		
1	整形外科疾患①	総論〔保存的治療と手術的治療・画像診断〕 関節疾患〔関節炎・関節の可動域の異常・五十肩〕
2	整形外科疾患②	関節疾患〔変形性関節症〕筋・腱疾患〔筋肉炎・筋膜炎・腱鞘炎〕
3	整形外科疾患③	骨代謝性疾患・骨腫瘍 〔骨粗しょう症・くる病・骨軟化症・骨腫瘍〕 形態異常〔先天性股関節脱臼・斜頚・側彎症・外反母趾・内反足〕
4	整形外科疾患④	脊椎疾患〔椎間板ヘルニア・後縦靱帯骨化症・脊椎分離症・脊椎すべり症〕
5	整形外科疾患⑤	脊椎疾患〔頚部変形脊椎症・腰部変形性脊椎症・ 頚部脊柱管狭窄症・腰部脊柱管狭窄症〕
6	整形外科疾患⑥	脊椎疾患〔腰痛症・頚椎捻挫・むちうち損傷〕 脊髄損傷〔脊髄損傷〕
7	整形外科疾患⑦	外傷〔骨折・脱臼〕
8	整形外科疾患⑧	外傷〔捻挫・スポーツ外傷障害〕
9	整形外科疾患⑨	その他の整形外科疾患〔胸郭出口症候群・頚腕症候群 頚肩腕症候群・ガングリオン・手根管症候群〕
10	整形外科疾患⑩	末梢神経性疾患〔圧迫性および紋扼性ニューロパシー〕
11	試験	試験
12	試験解説・まとめ	試験解説とまとめ

科目名【英】	リハビリテーション医学①【Rehabilitation Medicine】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	24	単　位	1
学　年	2年生	学　期	3学期	曜　日	木曜	時　限	2限

担当教員	中塚　和樹	実務者経験	2002年4月～　大和中央病院に所属。 外来・入院の急性期～回復期までのリハビリテーションを行う。

学習内容	一般病院でのリハビリテーション対象疾患となる病態の理解と基本的な運動療法知識の習得。
到達目標	国家試験対策も含めて、リハビリテーションの基礎知識を習得する。

準備学習 時間外学習	運動学・解剖学・各種病態の基礎知識の理解を進める。
使用教材	リハビリテーション医学（東洋療法学校協会）　配布プリント
留意点 備　考	授業のはじめと最後に同一の小テストを行い、授業内での予習復習を行うこと。

成績評価	期末試験100％

3学期　授業計画【内容･目標】		
1	リハビリテーション総説	障害の評価について
2	運動学の基礎	主に力学と姿勢制御について
3	正常歩行と姿勢	主に正常歩行の基礎知識について
4	異常歩行	各歩行障害の特徴について
5	脳卒中のリハ１	脳卒中の種類と運動麻痺について
6	脳卒中のリハ２	高次脳機能障害について
7	脳卒中のリハ３	脳卒中の運動療法概論
8	脳卒中のリハ４	脳卒中の運動療法実技
9	切断のリハ１	病態生理と運動療法
10	切断のリハ２　まとめ	装具について　試験前まとめ
11	試験	試験
12	試験解説	試験解説

科目名【英】	衛生学・公衆衛生学②【Hygiene・Public Health】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	24	単　位	1
学　年	2年生	学　期	2学期	曜　日	水曜	時　限	1限

担当教員	竹中　美樹	実務者経験	辻野夢鍼灸院（2014年8月～2016年3月）

学習内容	わが国では、近年衛生状態および栄養状態の著しい向上と予防医学・治療医学の進展によって、公衆衛生学上の諸条件は整備されてきている。しかし他方では、環境汚染の拡大や社会的不安の増大など多様な問題が浮かび上がってきている。このような時代に即して、健康な生活を進めるには何が必要か、生活環境を、物理的、化学的、生物学的社会因子として考察し、その中の障害因子と疾病との関わりについて学ぶ。各社会集団における健康をめぐる問題点、健康を守るための社会的なシステムを学ぶ。地域、学校、産業、老人、母子など各分野での衛生、保健上の諸問題について理解を深め、衛生行政の仕組み、衛生統計、分野別保健、健康増進、
到達目標	わが国の社会情勢および保健統計についてその現状を理解し、また医療従事者として必要な衛生環境を理解し実践できる水準に達すること。かつはり師・きゅう師国家試験に対応できるレベルに到達すること。

準備学習 時間外学習	講義後、講義で得た要点を『衛生学・公衆衛生学第2版』にて復習する。
使用教材	『衛生学・公衆衛生学第2版』鈴木庄亮、公益社団法人東洋療法学校協会 編集　（医歯薬出版） 『ライフスタイルと健康』森本曩　著(医学書院) 『国民衛生の動向』(厚生統計協会）
留意点 備　考	講義中、まとめとしてはり師きゅう師国家試験で過去に出題された問題に触れる。

成績評価	期末試験100％で評価する。

授業計画【内容･目標】		
1	第8章 成人・高齢者保健	【到達目標]高齢者保健の現状と問題点について理解する。 介護保険の対象者について説明できる。
2	第9章　感染症とその対策	[到達目標]感染症の3要因、感染源・感染経路・感受性の宿主の種類を理解する。 感染症新法に基づく分類1類～3類まで説明できる。
3	第9章　感染症とその対策	[到達目標] 感染症の3要因、感染源・感染経路・感受性の宿主の種類を理解する。 感染症新法に基づく分類1類～3類まで説明できる。
4	第10章 消毒法	[到達目標]消毒法の種類・方法・対象物について説明できる。
5	第10章 消毒法	[到達目標]消毒法の種類・方法・対象物について説明できる。医療従事者として必要な衛生面で知識の構築をし、実践できる。
6	第11章 疫学	[到達目標]疫学の研究方法と研究デザインについて学ぶ。またその特徴について説明できる。
7	第11章 疫学	[到達目標]疫学の研究方法と研究デザインについて学ぶ。またその特徴について説明できる。 実験疫学、分析疫学のうち提示された研究デザインに対して、リサーチクエスチョンの設定、簡便的に各デザインを組み立てる。
8	第11章 疫学	[到達目標]疫学の研究方法と研究デザインについて学ぶ。またその特徴について説明できる。
9	第12章 保健統計	[到達目標]我が国の衛生統計に関するげんじょうと変化・公衆衛生の問題点について理解する。人口動態の5事象、平均余命とはなにか説明できる。
10	第12章 保健統計	[到達目標]我が国の衛生統計に関するげんじょうと変化・公衆衛生の問題点について理解する。人口動態の5事象、平均余命とはなにか説明できる。

11	試験	試験
12	試験解説	試験の解答および解説

科目名【英】	東洋医学概論②【Outline of Oriental Medicine】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	48	単　位	3
学　年	2年生	学　期	1.2学期	曜　日	月曜	時　限	1限

担当教員	副田　恵子	実務者経験	1999年4月～鍼灸院を開院 鍼灸院及び往診にて鍼灸施術をおこなう

学習内容	1年生で学んだ東洋医学概論の復習を取り入れ基礎知識を固めながら、続きP150第2章第3節～P311第5章第3節までの応用を理解し経絡経穴の分野を絡めながら深める。
到達目標	東洋医学の理解を深め、楽しみながら臨床や日常生活にも生かせるようにする。 はり師・きゅう師国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	重要ポイントの復習が必要。毎回の小テスト対策が重要。
使用教材	教科書「東洋医学概論」（東洋療法学校協会編）　配布プリント
留意点 備　考	副教材として経絡経穴概論の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	毎授業に小テストを実施。期末試験70％＋小テスト30％で評価する。

授業計画【内容･目標】		
1	1年時の復習	1年時で学んだ生理物質、蔵象学説の理解の確認。 小テストで80％の内容理解到達を目標とする。
2	経絡	経絡の概念・機能・構成・病理 小テストで80％の内容理解到達を目標とする。
3	病因病機	外感・内傷・その他の病因 小テストで80％の内容理解到達を目標とする。
4	病因病機	病機 小テストで80％の内容理解到達を目標とする。
5	陰陽学説	陰陽の相互関係 小テストで80％の内容理解到達を目標とする。
6	五行学説	五行の関係 小テストで80％の内容理解到達を目標とする。
7	五行学説	五行学説の運用 小テストで80％の内容理解到達を目標とする。
8	四診	望診 小テストで80％の内容理解到達を目標とする。
9	四診	聞診 小テストで80％の内容理解到達を目標とする。
10	四診	問診 小テストで80％の内容理解到達を目標とする。
11	試験	試験
12	1学期の復習	1年～1学期までの復習と前期試験の解説 80％の内容理解到達を目標とする。

授業計画【内容･目標】		
1	1年時～1学期の復習	1年時～1学期で学ん理解の確認。 小テストで80％の内容理解到達を目標とする。
2	四診	その他の問診　身体症状など 小テストで80％の内容理解到達を目標とする。
3	四診	疼痛　女性の月経など 小テストで80％の内容理解到達を目標とする。
4	四診	切診　反応や腹診など 小テストで80％の内容理解到達を目標とする。
5	四診	切経　脈診　四診合参 小テストで80％の内容理解到達を目標とする。
6	弁証論治	八綱弁証　気血津液弁証 小テストで80％の内容理解到達を目標とする。
7	弁証論治	臓腑弁証 小テストで80％の内容理解到達を目標とする。
8	弁証論治	六経弁証 小テストで80％の内容理解到達を目標とする。
9	弁証論治	治則 小テストで80％の内容理解到達を目標とする。
10	弁証論治	治法 小テストで80％の内容理解到達を目標とする。
11	試験	試験
12	2学期の復習	1年～2学期までの復習と前期試験の解説 80％の内容理解到達を目標とする。

科目名【英】	経絡経穴概論②【Outline of the Meridians and Acupuncuture Point】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	24	単　位	1
学　年	2年生	学　期	1学期	曜　日	木曜	時　限	2限

担当教員	駒井　知佳子	実務者経験	2009年4月～2014年6月不妊治療専門病院にて受胎鍼担当。 2014年4月桃の花針灸院開院。

学習内容	経絡と経穴の特徴を学び、経穴の場所や意義を学ぶ。
到達目標	取穴部位の習得（正確に取穴ができる）および治療穴として選穴できるようになる。 はり師きゅう師国家試験の出題される問題を理解し正確な解答を選択できるようになる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	【教科書】新版 経絡経穴概論
留意点 備　考	１．講義と取穴実技を行う。 実技では取穴しやすい服装を用意すること。お互いに尊重しあって行うこと。 ２．出席は自分で管理すること。

成績評価	本試験60% 平常点40%。平常点は授業中に行う小テストで評価する。

1学期　授業計画【内容･目標】		
1	足少陽胆経胆経①	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
2	足少陽胆経②	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
3	足少陽胆経③	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
4	足厥陰肝経①	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
5	足厥陰肝経②	循行経絡・経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
6	奇穴①	経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
7	奇穴②	経穴名・取穴・特徴を学ぶ。
8	取穴テスト	範囲　足少陽胆経、足厥陰肝経
9	奇経	奇経八脈の流注の概要、取穴実技
10	経絡経穴学と現代医学	教科書p232～
11	試験	試験
12	テスト返却	解答と解説

科目名【英】	はりきゅう理論②【Scientific Foundation of Acupuncture】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	48	単　位	3
学　年	2年生	学　期	2.3学期	曜　日	2学期：土曜 3学期：水曜	時　限	2学期：12限 3学期：1限

担当教員	後藤　卓	実務者経験	2001年4月～2003年3月　鍼灸院に所属 鍼灸院にて鍼灸施術をおこなう

学習内容	はり術、きゅう術のリスクとそれに対するリスク管理の方法を学ぶとともに、鍼灸治療の科学的な効果について学ぶ
到達目標	鍼灸治療の治療効果について現代医学的な実験やデータに基づく理論の習得。 鍼灸の治療効果に関連のある学説について学ぶ。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の予習が必要
使用教材	【教科書】はりきゅう理論　　【配布資料】あり
留意点 備　考	副教材として解剖学・生理学の教科書を持参して受講すること

成績評価	各学期に3回小テストを実施。期末試験70％＋小テスト20％＋出席点10％で評価する。

授業計画【内容･目標】		
1	第8章　リスク管理	■　リスク管理の概要〔インフォームドコンセントなど〕 ■　鍼療法の過誤〔気胸・折鍼・皮膚反応〕について
2	第8章　リスク管理	■　鍼療法の過誤〔出血内出血・抜鍼困難・脳貧血・遺感覚〕
3	第8章　リスク管理	■　灸療法の過誤〔灸痕の化膿・灸あたり〕について ■　感染症対策の概要について ■　消毒レベル〔滅菌・消毒・洗浄〕について
4	第8章　リスク管理	■　手指消毒〔手指洗浄・手指消毒法〕について ■　器具の消毒方法〔オートクレーブなど〕 ■　器具の保管について
5	第8章　リスク管理	■　鍼治療による感染について
6	第8章　リスク管理	■　リスク管理の概要〔インフォームドコンセントなど〕 ■　鍼療法の過誤〔気胸・折鍼・皮膚反応〕について
7	鍼灸治効の基礎①	■ 痛みの種類 ■ 内因性発痛物質の種類　■ 痛覚投射部位の概要
8	鍼灸治効の基礎②	■ 熱痛の発生と特徴　■ 関連痛の概要
9	鍼灸治効の基礎③	■ 鍼灸刺激と反射〔伸張反射・逃避反射のメカニズム〕
10	復習・まとめ	定期試験前にこれまでの学習内容のまとめと復習
11	試験	試験
12	復習・まとめ	定期試験の解答・解説・まとめ

授業計画【内容･目標】		
1	鍼灸治効の基礎④	■ 鍼灸刺激と反射 〔自律神経反射・ヘッド帯・マッケンジー帯〕
2	鍼灸治効の基礎⑤	■ 鍼灸刺激と体性自律反射について ■ 軸索反射のメカニズム　■ 鍼鎮痛〔鍼麻酔〕
3	鍼灸治効の基礎⑤	■ 軸索反射のメカニズム　■ 鍼鎮痛〔鍼麻酔〕
4	鍼灸治効の基礎⑥	■ 鍼鎮痛〔内因性オピオイド・オピオイド拮抗物質・下行性痛覚抑制系〕
5	鍼灸療法の一般治効理論①	■ 鍼鎮痛〔ゲートコントロール説〕 ■ 鍼灸施術部位の反応 ■ 鍼灸施術の治療的作用について
6	鍼灸療法の一般治効理論②	■ 体性自律反射による鍼の効果 〔鍼刺激による筋血流に対する作用・内臓に対する作用〕 ■ ポリモーダル受容器の特徴
7	鍼灸療法の一般治効理論③	■ 灸療法と炎症 ■ 鍼灸治療による生体防御機構に及ぼす影響
8	関連学説①	■ サイバネティックスの学説　■ 内部環境の恒常性 ■ ホメオスターシス、緊急反応
9	関連学説②	■ ストレス学説　■ レイリー現象　■ 圧発汗反射
10	復習・まとめ	定期試験前にこれまでの学習内容のまとめと復習
11	試験	試験
12	復習・まとめ	定期試験の解答・解説・まとめ

科目名【英】	東洋医学臨床論① 【Clinical Oriental Medicine】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	76	単　位	5
学　年	2年生	学　期	通年	曜　日	1学期：金曜 2学期：木曜 3学期：火曜	時　限	1学期：1限 2学期：2限 3学期：2限

担当教員	松本　栞	実務者経験	2013年3月～2014年9月　鍼灸整骨院に所属 鍼灸治療を担当

学習内容	症候・疾患に対して現代医学的・東洋医学的観点からの病態生理、治療方法、施術の適応判断を学ぶ。
到達目標	臨床において現代医学的・東洋医学的両方の観点から症候・疾患を分析し、治療方法を考える力を身につける。

準備学習 時間外学習	東洋医学的観点からの診断において、東洋医学概論の基礎知識の復習が必要となる。 現代医学的観点からの診断において、臨床医学各論、臨床医学総論の復習・関連付けが必要となる。
使用教材	教科書『東洋医学臨床論（はりきゅう編）』（東洋療法学校協会編）　配布資料・B5ファイル
留意点 備　考	特になし

成績評価	各学期に小テストを実施、学期末試験70％＋小テスト30％で評価する。

授業計画【内容･目標】		
1	治療総論	【現代医学的】治療原則・治療計画 【東洋医学的】治療原理・治療原則・選穴配穴原則
2	頭痛	現代医学的頭痛の分類　治療法 東洋医学的頭痛の鑑別　弁証
3	顔面痛と歯痛	現代医学的顔面痛の鑑別　適応疾患 東洋医学的弁証　症状～治療方針
4	顔面麻痺	現代医学的鑑別・分類 東洋医学的分類・鑑別・治療方針
5	眼精疲労 鼻閉　鼻汁	現代医学的分類・適応疾患 東洋医学的分類・鑑別・弁証
6	めまい 耳鳴り　難聴	現代医学的分類・適応疾患 東洋医学的分類・鑑別・弁証・治療方針
7	脱毛	現代医学的分類・適応疾患 東洋医学的分類・鑑別・弁証・治療方針
8	咳嗽　喘息	現代医学的分類・適応疾患 東洋医学的分類・鑑別・弁証・治療方針
9	胸痛　腹痛	現代医学的分類・適応疾患 東洋医学的分類・鑑別・弁証・治療方針
10	悪心　嘔吐	現代医学的分類・適応疾患 東洋医学的分類・鑑別・弁証・治療方針
11	試験	試験
12	試験ふりかえり	試験解説

授業計画【内容･目標】		
1	便秘　下痢①	現代医学的分類・適応疾患 東洋医学的分類・鑑別・弁証・治療方針
2	便秘　下痢②	現代医学的分類・適応疾患 東洋医学的分類・鑑別・弁証・治療方針
3	月経異常①	現代医学的分類・適応疾患 東洋医学的分類・鑑別・弁証・治療方針
4	月経異常②	現代医学的分類・適応疾患 東洋医学的分類・鑑別・弁証・治療方針
5	排尿障害①	現代医学的分類・適応疾患 東洋医学的分類・鑑別・弁証・治療方針
6	排尿障害②	現代医学的分類・適応疾患 東洋医学的分類・鑑別・弁証・治療方針
7	勃起障害	現代医学的分類・適応疾患 東洋医学的分類・鑑別・弁証・治療方針
8	肩こり　頸肩腕痛	現代医学的分類・適応疾患 東洋医学的分類・鑑別・弁証・治療方針
9	肩関節痛　上肢痛①	現代医学的考え方　適応疾患 腱板炎・上腕二頭筋長頭腱炎などの解説 適応疾患：胸郭出口症候群、絞扼神経障害 症状、所見、治療方針、処方例
10	肩関節痛　上肢痛②	現代医学的考え方　適応疾患 腱板炎・上腕二頭筋長頭腱炎などの解説 適応疾患：胸郭出口症候群、絞扼神経障害 症状、所見、治療方針、処方例
11	試験	試験
12	試験ふりかえり	試験解説

授業計画【内容･目標】		
1	肩関節痛　上肢痛	現代医学的考え方　適応疾患 腱板炎・上腕二頭筋長頭腱炎 胸郭出口症候群等　症状、所見、治療方針、処方例
2	腰下肢痛①	現代医学的考え方・適応疾患 筋筋膜性腰痛、坐骨神経痛、梨状筋症候群など
3	腰下肢痛②	現代医学的考え方・適応疾患 筋筋膜性腰痛、坐骨神経痛、梨状筋症候群など
4	運動麻痺①	絞扼神経障害 病態、症状、所見、治療方針など
5	運動麻痺②	絞扼神経障害 病態、症状、所見、治療方針など
6	運動麻痺③	絞扼神経障害 病態、症状、所見、治療方針など
7	高血圧　　低血圧	現代医学的考え方 東洋医学的考え方：分類・弁証など
8	不眠	現代医学的考え方 東洋医学的考え方：分類・弁証など

9	疲労　倦怠	現代医学的考え方 東洋医学的考え方：分類・弁証など
10	食欲不振　肥満	現代医学的考え方 東洋医学的考え方：分類・弁証など
11	試験	試験
12	発疹　小児の症状	現代医学的考え方 東洋医学的考え方：分類・弁証など

科目名【英】	東洋医学臨床論②【Clinical Oriental Medicine】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	48	単　位	3
学　年	2年生	学　期	2.3学期	曜　日	月曜	時　限	2限

担当教員	山本　岳	実務者経験	学校附属診療所にて３年間勤務

学習内容	徒手検査などの検査の施行、検査値について学習する。
到達目標	疾患の判断をおこない適切な徒手検査が行うことができる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	ずっと使える！鍼灸臨床BOOK
留意点 備　考	

成績評価	平常点：30%【小テスト：10点満点】　本試験：70%【筆記試験：100点満点】

2学期　授業計画【内容･目標】		
1	血圧	血圧測定 血圧測定の実施に必要な事項を列挙できる
2	血圧	血圧のメカニズム 血圧に必要な構造、機能を説明できる
3	血圧	高血圧 高血圧をきたす疾患を列挙できる
4	反射	反射弓 反射弓について説明できる
5	反射	深部反射以外の反射 深部反射以外の反射の名称を列挙できる
6	反射	反射の異常 反射の異常がおきる疾患を列挙できる
7	関節可動域	関節可動域 測定方法を説明できる
8	関節可動域	上肢の可動域測定
9	関節可動域	下肢の可動域測定
10	各種検査	上記検査以外の検査 血液検査や腫瘍マーカーなどの異常値を説明できる
11	試験	試験
12		

3学期　授業計画【内容･目標】		
1	実技	血圧・反射・関節可動域　実技
2	実技	頚部・胸郭出口部の鑑別検査
3	実技	肩関節の鑑別検査
4	実技	上肢(肘関節・手関節)の鑑別検査　今までのおさらい
5	実技	腰臀部の鑑別検査
6	実技	膝関節の鑑別検査
7	実技	主要関節の関節可動域検査
8	実技	主要な部位の筋力検査(MMT)
9	実技	神経疾患の検査
10	試験	試験
11	試験	試験
12	まとめ	まとめ

科目名【英】	はりきゅう実技④～現代診断治療学～【Practice of Acupuncture and Moxibustion】			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	72	単　位	2
学　年	2年生	学　期	通年	曜　日	火曜	時　限	1限

担当教員	清藤　直人	実務者経験	2002年～　清藤鍼灸院にて鍼灸治療などを担当 2007年～　同院院長として業務に従事

学習内容	整形外科的疾患を重点的に学んでいく。徒手検査などを用いて疾患を鑑別し、症状に伴う治療を学ぶ。
到達目標	①　病的反射、徒手検査、徒手筋力検査法を修得し、疾患を鑑別できるようになる。 ②　現代医学的EBMに基づく施鍼技術の修得、それに基づく東洋医学的治療の修得

準備学習時間外学習	
使用教材	配布プリント、ずっと使える！鍼灸臨床BOOK（滋慶出版）
留意点備　考	

成績評価	本試験60%、小テスト40%	

1学期　授業計画【内容･目標】		
1	オリエンテーション	自己紹介、バイタルサインの理解、一年生の基礎実技の自己評価確認
2	基礎実技	技術の確認、体表観察能力検定
3	頚部疾患の診察・検査・治療①	頚椎症性神経根症と頚椎症性脊髄症の理解。病的反射の修得
4	頚部疾患の診察・検査・治療②	頚椎症に対する局所、遠隔治療（使用鍼：寸３－1番）
5	胸郭出口症候群の診察・検査・治療	斜角筋症候群を鑑別する徒手検査と治療（使用鍼：寸３－１番）
6	胸郭出口症候群の診察・検査・治療	肋鎖症候群を鑑別する徒手検査と治療（使用鍼：寸３－１番）
7	胸郭出口症候群の診察・検査・治療	過外転（小胸筋）症候群を鑑別する徒手検査と治療（使用鍼：寸３－１番）
8	1学期復習①	頚部、胸郭出口症候群に対する病的反射、徒手検査の理解と確認
9	1学期復習②	頚部、胸郭出口症候群に対する治療穴の理解と確認
10	試験	試験
11	試験	試験
12	応用編	西洋医学と東洋医学を融合した治療の取り組み

2学期　授業計画【内容･目標】		
1	肩関節痛の診察・検査・治療①	上腕二頭筋長頭腱炎を鑑別する徒手検査と治療（使用鍼：寸３－１番）
2	肩関節痛の診察・検査・治療②	腱板炎を鑑別する徒手検査と治療（使用鍼：寸３－１番）
3	肩関節痛の診察・検査・治療③	肩峰下インピジメント症候群を鑑別する徒手検査と治療（使用鍼：寸３－１番）
4	肩関節痛の診察・検査・治療④	肩峰下滑液包炎を鑑別する徒手検査と治療（使用鍼：寸３－１番）
5	肘関節痛の診察・検査・治療	上腕骨外側上顆炎を鑑別する徒手検査と治療（使用鍼：寸３－１番）
6	上肢末梢神経障害の診察・検査・治	絞扼性尺骨神経麻痺を鑑別する徒手検査と治療（使用鍼：寸３－１番）
7	上肢末梢神経障害の診察・検査・治	絞扼性正中神経麻痺、ド・ケルバン病を鑑別する徒手検査と治療（使用鍼：寸３－１番）
8	2学期復習①	肩関節痛、肘関節痛、上肢末梢神経障害に対する病的反射、徒手検査の理解と確認
9	2学期復習②	肩関節痛、肘関節痛、上肢末梢神経障害に対する治療穴の理解と確認
10	試験	試験
11	試験	試験
12	応用編	西洋医学と東洋医学を融合した治療の取り組み

3学期　授業計画【内容･目標】		
1	腰下肢痛の診察・検査・治療①	非特異的腰痛、腰部脊柱管狭窄症を鑑別する徒手検査と治療（使用鍼：寸6－2番）
2	腰下肢痛の診察・検査・治療②	坐骨神経痛を鑑別する徒手検査と治療（使用鍼：寸３－１番、寸6－2番）
3	仙腸関節痛の診察・検査・治療	仙腸関節炎を鑑別する徒手検査と治療（使用鍼：寸３－１番、寸6－2番）
4	股関節痛の診察・検査・治療	股関節障害を鑑別する徒手検査と治療（使用鍼：寸３－１番、寸6－2番）
5	腰下肢痛の診察・検査・治療③	椎間板ヘルニアを鑑別する病的反射、徒手検査と治療（使用鍼：寸３－１番、寸6－2番）
6	膝関節痛の診察・検査・治療	半月板、側副靱帯、十字靱帯損傷を鑑別する徒手検査と治療（使用鍼：寸３－１番）
7	下肢の診察・検査・治療	スポーツ障害、足関節、捻挫、足底筋膜炎に対する治療（使用鍼：寸３－１番）
8	3学期復習①	頚部、胸郭出口症候群に対する病的反射、徒手検査の理解と確認
9	3学期復習②	頚部、胸郭出口症候群に対する治療穴の理解と確認
10	試験	試験
11	試験	試験

12	応用編	西洋医学と東洋医学を融合した治療の取り組み

科目名【英】	はりきゅう実技⑤～中医診断治療学I～【Practice of Acupuncture and Moxibustion】			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	72	単　位	2
学　年	2年生	学　期	通年	曜　日	土曜	時　限	1.2限

担当教員	一井　綾乃	実務者経験	1996年4月～鍼灸院所属、 1996年7月～2013年3月大阪医大付属病院麻酔科ペインクリニック所属

学習内容	東洋医学的な観点からの診断学・治療学を学ぶ。
到達目標	「舌診」「脈診」「腹診」の基本技術を身につけながら、主要症候に対して、中医学に基づいた観点からの鍼灸治療を行えるようにする。

準備学習 時間外学習	東洋医学概論、経穴学を復習する。
使用教材	配布プリント
留意点 備　考	基本的には鍼は1寸3分の1番鍼、2番鍼、3番鍼を使用する。

成績評価	毎時間片手挿管、紙上施灸を実施。それを平常点とし20～30％＋期末試験70～80％で評価する。

1学期　授業計画【内容･目標】		
1	オリエンテーション	1年次の復習、2年次終了時までの到達目標を把握する。
2	四診1	四診とは何かを学習し、舌診のやり方を理解する。
3	四診2	舌診を理解し、診ることができる。
4	四診3	脈診と腹診を理解し、診ることができる。
5	診断1	陰陽の虚証、実証の症候を診ることができる。
6	診断2	気の虚証、実証の症候を診ることができる。
7	診断3	血の虚証、実証の症候を診ることができる。
8	診断4	津液の虚証、実証の症候と精の虚証を診ることができる。
9	まとめ	試験の内容を理解し、練習する。
10	試験	試験
11	試験	試験
12	振り返り	1学期の内容を理解し、復習する。

2学期　授業計画【内容･目標】		
1	診断1	肝の病証に対して診断を下し、治療することができる。
2	診断2	心の病証に対して診断を下し、治療することができる。
3	診断3	脾の病証に対して診断を下し、治療することができる。
4	診断4	肺の病証に対して診断を下し、治療することができる。
5	診断5	腎の病証に対して診断を下し、治療することができる。
6	診断6	肝の病証に対して診断を下し、治療することができる。
7	診断7	心の病証に対して診断を下し、治療することができる。
8	診断8	脾の病証に対して診断を下し、治療することができる。
9	まとめ	試験の内容を理解し、練習する。
10	試験	試験
11	試験	試験
12	振り返り	2学期の内容を理解し、復習する。

3学期　授業計画【内容･目標】		
1	診断1	肺の病証に対して診断を下し、治療することができる。
2	診断2	腎の病証に対して診断を下し、治療することができる。
3	診断3	肝の病証に対して診断を下し、治療することができる。
4	診断4	心の病証に対して診断を下し、治療することができる。
5	診断5	脾の病証に対して診断を下し、治療することができる。
6	診断6	肺の病証に対して診断を下し、治療することができる。
7	診断7	腎の病証に対して診断を下し、治療することができる。
8	診断8	六腑の病証に対して診断を下し、治療することができる。
9	まとめ	試験の内容を理解し、練習する。
10	試験	試験
11	試験	試験
12	振り返り	3学期の内容を理解し、復習する。

科目名【英】	はりきゅう実技⑥～中医診断治療学Ⅱ～【Practice of Acupuncture and Moxibustion】			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	72	単　位	2
学　年	2年生	学　期	通年	曜　日	金曜	時　限	1,2学期：2限： 3学期：1限

1.2学期担当教員	丸茂　美保子	1学期実務者経験	1992年～2004年　鍼灸院や整形外科に所属 2004年～2014年　教員養成・専門学校専任教員　2014年開業

1.2学期学習内容	1学期：部位別に触診し硬結・張りがどこにあるか、全身を観察して左右での違い冷たい部位や他より温かい部位がないか観察する。 2学期：5回程度　症例を用いて東洋医学的に証立てをする。それ以降はグループワーク
1.2学期到達目標	1学期：全身の観察（左右での違い・温度差・長さなど）ができるようにする。硬結・張りを触診でき硬結や張りの部位に刺鍼し硬結に刺さった感覚・弛んだ感覚を習得する。 2学期：症例を東洋医学的に思考できる。処方穴の穴性を理解し臨床実習や臨床で使えるツボを増やす。

1.2学期	
準備学習時間外学習	東洋医学概論　東洋医学臨床論　解剖学（筋肉）を使用しながら行う
使用教材	［教科書］東洋医学概論　東洋医学臨床論（はりきゅう編）解剖学（筋肉）滋慶共通テキスト ［プリント］プリントで学習する。
留意点備　考	2学期　必要なテキストを持参する

1.2学期成績評価	1学期：本試験80点　平常点20点（プリントへの記載内容は平常点に含む） 2学期：本試験70点　ペーパー試験20点　平常点10点

1学期　授業計画【内容･目標】		
1	オリエンテーション	授業の進め方・評価についての説明、施術力の確認
2	身体観察刺鍼	状態を確認し、症状のある部位への施術
3	身体観察刺鍼	状態を確認し、症状のある部位への施術
4	身体観察刺鍼	状態を確認し、症状のある部位への施術
5	身体観察刺鍼	状態を確認し、症状のある部位への施術
6	身体観察刺鍼	状態を確認し、症状のある部位への施術
7	身体観察刺鍼	状態を確認し、症状のある部位への施術
8	身体観察刺鍼	状態を確認し、症状のある部位への施術
9		試験前　まとめ
10	試験	試験
11	試験	試験
12		試験後　まとめ　試験フィードバック

2学期　授業計画【内容･目標】

1	グループワーク	グループにて問診・東洋医学的診断・処方・施術を行う（発表・ミニカルテあり）
2	グループワーク	グループにて問診・東洋医学的診断・処方・施術を行う（発表・ミニカルテあり）
3	グループワーク	グループにて問診・東洋医学的診断・処方・施術を行う（発表・ミニカルテあり）
4	グループワーク	グループにて問診・東洋医学的診断・処方・施術を行う（発表・ミニカルテあり）
5	グループワーク	グループにて問診・東洋医学的診断・処方・施術を行う（発表・ミニカルテあり）
6	グループワーク	グループにて問診・東洋医学的診断・処方・施術を行う（発表・ミニカルテあり）
7	グループワーク	グループにて問診・東洋医学的診断・処方・施術を行う（発表・ミニカルテあり）
8	グループワーク	グループにて問診・東洋医学的診断・処方・施術を行う（発表・ミニカルテあり）
9		試験前　まとめ
10	試験	試験
11	試験	試験
12		試験後　まとめ　試験フィードバック

3学期 担当教員	酒井　美登子	2.3学期 実務者経験	2002年～2004年　整形外科リハビリ室にてあまし師として従事 2008年～　専門学校にて非常勤講師として従事 2009年～　開業

3学期 学習内容	臨床でよく出会う疾患に対して鍼灸適応か不適応かを見分け、東洋医学と西洋医学の両面からのアプローチをしていく。疾患ごとに病態を把握して、安全深度、治療穴の選穴を学び、実際にその穴に鍼灸実技を行う。
3学期 到達目標	各疾患の病態を把握したうえで、患者様のお身体にどの様なアプローチが出来るか臨床現場で困らないようにする。

3学期	
準備学習 時間外学習	東洋医学臨床論（はりきゅう編）に目を通しておく。
使用教材	［教科書］東洋医学臨床論（はりきゅう編）、滋慶共通テキスト、鍼灸マニュアル ［プリント］各回２０～３０分程度プリントで学習する。
留意点 備　考	授業前後の挨拶は、人間関係の基本です。しっかり挨拶してください。

3学期 成績評価	本試験　６０点　　平常点　４０点

3学期　授業計画【内容･目標】		
1	東洋医学臨床論　Ⅰ	腰痛・腰下肢痛
2	Ⅱ	頸・肩のこり・痛み
3	Ⅲ	特別講義　小児はりの実際
4	Ⅳ	月経異常・排尿障害・ＥＤ
5	Ⅴ	高血圧・低血圧
6	Ⅵ	悪心と嘔吐・便秘・下痢
7	Ⅶ	特別講義　漢方薬の煎じを味わう

8	Ⅷ	発熱・冷え・のぼせ
9	Ⅸ	不眠・疲労と倦怠
10	試験	試験
11	試験	試験
12	総括	試験の講評、今後の課題

科目名【英】	臨床実習① 【Clinical Education】			必修/選択	必修	授業形式	臨床実習
				総時間数	60	単　位	1
学　年	2年生	学　期	1,3学期	曜　日	1学期：土曜 3学期：月曜	時　限	1学期：1.2限 3学期：2限

1学期 担当教員	山本　岳	1学期 実務者経験	学校附属診療所にて３年間勤務
3学期 担当教員	髙木　健之	3学期 実務者経験	専門学校臨床施設にて2年間施術担当
3学期 担当教員	竹中　美樹	3学期 実務者経験	辻野夢鍼灸院（2014年8月～2016年3月）

学習内容	3年次の臨床実習で必要な医療面接やカルテ記載の方法など、実習を通して獲得する。
到達目標	医療面接において必要な情報をスムーズに聴取することができる。 カルテ記載において、医療面接より得た情報を詳細にまとめることができる。

準備学習 時間外学習	自身でかかったことのある医療機関のことを思い出してみる。
使用教材	ずっと使える！鍼灸臨床BOOK　配布資料など
留意点 備　考	健常者への聴取になるが、患者役の訴えを親身に聴くようにする。

成績評価	出席点【1学期は実技試験の評価も加味する】＋レポート評価　※原則100％の出席にて評価する。

1学期　授業計画【内容･目標】		
1	医療面接①	オリエンテーション 医療面接について　方法論や聴取する内容についての講義
2	医療面接②	医療面接実技 患者役と施術者役に分かれそれぞれ医療面接をおこなう
3	医療面接+鍼灸実技	それぞれの障害部位を聴取し、施術案を立案、実施してみる
4	医療面接+鍼灸実技	それぞれの障害部位を聴取し、施術案を立案、実施してみる
5	医療面接+鍼灸実技	それぞれの障害部位を聴取し、施術案を立案、実施してみる
6	医療面接+鍼灸実技	それぞれの障害部位を聴取し、施術案を立案、実施してみる
7	医療面接+鍼灸実技	それぞれの障害部位を聴取し、施術案を立案、実施してみる
8	医療面接+鍼灸実技	それぞれの障害部位を聴取し、施術案を立案、実施してみる
9	医療面接+鍼灸実技	それぞれの障害部位を聴取し、施術案を立案、実施してみる
10	物理療法	超音波治療器、低周波治療器、鍼通電治療器、電子温灸器の使用方法
11	物理療法	超音波治療器、低周波治療器、鍼通電治療器、電子温灸器の使用方法
12	物理療法	超音波治療器、低周波治療器、鍼通電治療器、電子温灸器の使用方法

2学期　授業計画【内容･目標】		
1	外部臨床実習	外部医療施設にて実習をおこなう
2	外部臨床実習	外部医療施設にて実習をおこなう
3	外部臨床実習	外部医療施設にて実習をおこなう
4	外部臨床実習	外部医療施設にて実習をおこなう
5	外部臨床実習	外部医療施設にて実習をおこなう
6	外部臨床実習	外部医療施設にて実習をおこなう
7	外部臨床実習	外部医療施設にて実習をおこなう
8	外部臨床実習	外部医療施設にて実習をおこなう
9	外部臨床実習	外部医療施設にて実習をおこなう
10	外部臨床実習	外部医療施設にて実習をおこなう
11	外部臨床実習	外部医療施設にて実習をおこなう
12	外部臨床実習	外部医療施設にて実習をおこなう

3学期　授業計画【内容･目標】		
1	鍼灸臨床研究	鍼灸の臨床研究について知る
2	鍼灸臨床研究	自分の興味がある研究を調べてみる
3	鍼灸臨床研究	研究内容を立案する
4	鍼灸臨床研究	研究内容を立案する
5	鍼灸臨床研究	研究内容を立案する
6	鍼灸臨床研究	研究内容を立案する
7	カルテ記載	カルテに記載する情報にどのようなものがあるのか学ぶ
8	カルテ記載	カルテに記載する情報にどのようなものがあるのか学ぶ
9	カルテ記載	カルテに記載する情報にどのようなものがあるのか学ぶ 症例を用いて分類分けをする
10	カルテ記載	カルテに記載する情報にどのようなものがあるのか学ぶ 症例を用いて分類分けをする
11	カルテ記載	カルテに記載する情報にどのようなものがあるのか学ぶ 症例を用いて分類分けをする
12	カルテ記載	カルテに記載する情報にどのようなものがあるのか学ぶ 症例を用いて分類分けをする

科目名【英】	外国語②～中国語～【Foreign Language】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	24	単　位	1
学　年	2年生	学　期	1学期	曜　日	水曜	時　限	1限

担当教員	栩野　雅子	実務者経験	1993年～　通訳・翻訳業務 2007年～　各種学校で中国語担当

学習内容	中国、中国語に関する基礎知識と　基本的な会話表現を学ぶ
到達目標	中国、中国語に関心を持ち、基礎的な知識を習得する。

準備学習 時間外学習	
使用教材	Jリサーチ出版『旅行中国語会話』、配布プリント
留意点 備　考	

成績評価	本試験　50%　　平常点30%　　出席点　20%

授業計画【内容･目標】		
1	中国語の基礎知識	授業の進め方　中国、中国に関する基礎知識　簡単な挨拶と自分の名前が言える
2	発音、数字	声調の練習　基本単語の発音練習　100までの数が言える
3	基本フレーズ（1）	教科書の基本フレーズの練習　教科書の基本フレーズが言える
4	基本フレーズ（2）	教科書の基本フレーズの練習　教科書の基本フレーズが言える
5	基本フレーズ（3）	教科書の基本フレーズの練習　教科書の基本フレーズが言える
6	場面別会話（1）	場面別会話に必要なフレーズの練習　「場面別会話編」の基本フレーズが言える
7	場面別会話（2）	場面別会話に必要なフレーズの練習　「場面別会話編」の基本フレーズが言える
8	場面別会話（3）	場面別会話に必要なフレーズの練習　「場面別会話編」の基本フレーズが言える
9	総仕上げ	既習表現を使って発表する
10	復習	発音、基本フレーズなどを復習し、定着させる
11	試験	試験
12	試験解説・まとめ	試験解説　授業の総括